

後志の概要

【沿革】

開拓の歴史は、松前、江差からの追ニシン漁場の北上により、日本海沿岸部からニシンを中心とする漁業で早くから開け、内陸部は明治中期に開拓の鋤が入れられました。

「しりべし」という名前の由来は、現在後志に流れている尻別川のアイヌ語「シリ・ペツ」から取ったもので、命名者は「ほっかいどう」の名付け親でもある松浦武四郎です。

後志支庁は明治43年に倶知安村(現在の倶知安町)に設置され、その構成は、昭和30年及び31年の町村合併を経て、現在の市町村構成になりました。

平成22年4月1日に後志支庁が後志総合振興局に名称が変更になりました。

【現況】

後志管内の人口は、約19.2万人(令和5年4月30日住民基本台帳)です。

下図にあるとおり1市13町6村で構成されていて、積丹半島をかこむ北海道の南西部に位置しています。総面積は、約4,306km²でこれは全道の約5.2%にあたり、ほぼ石川県、福井県、山梨県、徳島県及び長崎県の広さに匹敵します。

また、内陸には、中央部に「支笏洞爺国立公園」に属する羊蹄山(標高1,898m)がそびえ、西方にはニセコ連峰、東方に余市岳などが連なり、起伏波状の多い地形を呈しています。

日本海の沿岸は、史跡と伝説を数多く秘めた海岸線が321.4kmの長さに及び、ニセコ積丹小樽海岸国定公園に指定されており、人々に親しまれています。

気候は、夏季は一般に温暖な気候ですが、冬季は複雑な地形のため地域により異なり、羊蹄山麓地帯は道内でも屈指の豪雪地帯となっています。

【産業】

管内の産業は、小樽市の商業、サービス業、北後志の果樹園芸、羊蹄山麓の馬鈴薯、アスパラ、ビートなどの畑作農業や、その他の地域での米作、酪農業および沿岸部の漁業、水産加工が盛んです。

また、各地で温泉が湧出し、山岳・海岸線の雄大な自然美や大規模なスキー場を有することから、全道有数の観光地となっています。

